

新ごみ処理施設整備に向けての取り組み

～家庭などから排出される「ごみの内容物」を調査しました～

【問合せ】新ごみ処理施設整備室 ☎782・0263

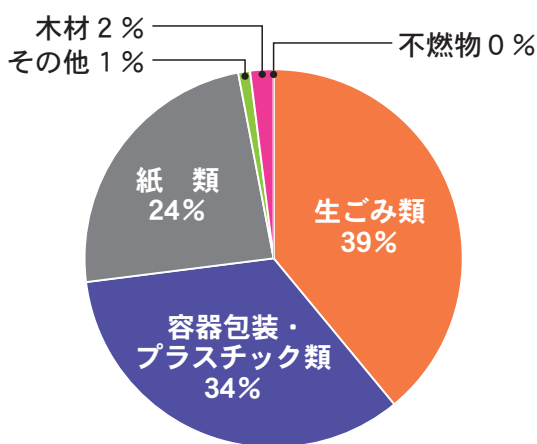
南魚沼市と湯沢町は、新たなごみ処理施設の整備に向けた検討を進めています。

市ではごみの分別の実態を把握し、今後のごみ減量化、分別の適正化を図るため、家庭系ごみの内容物を調査しました。

調査方法 5月11日と8月25日に、市内のごみステーションに排出された家庭系ごみを無作為に抽出・採取し、その内容物（ごみ質）をごみの種別ごとに分けて、それぞれの重量を計測しました。

調査結果

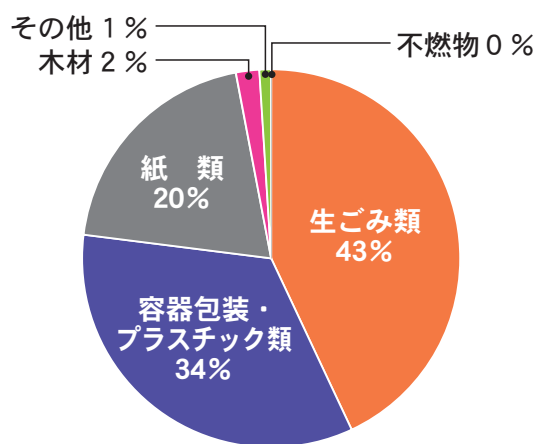
ごみ質調査結果（5月11日実施）



主な内容は重量比で、生ごみ 39%、容器包装・プラスチック類 34%、紙類 24%でした。

生ごみは水分が多く少量でも重量があるため、ごみ袋内の割合は大きくなる傾向があります。紙類はティッシュペーパーやアルコール系のウェットティッシュなどが多く、新型コロナウイルス対策や時期的に花粉症などによる影響があったと推測されます。

ごみ質調査結果（8月25日実施）



主な内容は重量比で、生ごみ 43%、容器包装・プラスチック類 34%、紙類 20%でした。

5月11日の調査と比較すると、生ごみの割合が4%増加しました。時期的にスイカやメロンなどの果実の皮や野菜くずが多かったことが要因です。容器包装・プラごみの割合は、前回と同じですが、リサイクル可能な卵パックや白トレーなどが多くみられました。

調査結果からわかるごみ減量化のポイント

今回の調査結果を分析して、ごみの減量化に向けた重点ポイントをまとめました。

ポイント1 生ごみは、できるだけ水分を切って排出しましょう

家庭系ごみは生ごみが全体の約4割で、最も多くの割合を占めています。生ごみには、手付かずのままの食料品も見られました。一般的に生ごみの水分量は約80%と高いため、生ごみの水分をできるだけ減らして排出することや、食料品は使う分だけ購入してできるだけ食べることでの減量が期待できます。

ポイント2 資源化が可能なごみは、分別して排出しましょう

家庭系ごみの中に、再生できる資源ごみが含まれていました。特に減量効果が期待できるのは、容器包装・プラスチック類と紙類です。資源ごみはきちんと分別すればリサイクルできますが、ごみとして排出されると処理費用が必要になります。プラスチック類、段ボール、新聞紙・雑誌、雑がみ、飲料用紙パックなどの分別に、より一層ご協力ください。